

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は2025年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに大会総則、本大会要項、競技注意事項および申し合わせ事項によって行う。

2 競技場の使用について

- ウォームアップ場は補助競技場を原則とする。投てき種目の練習については、定められた場所（補助競技場の投てきピット）でのみ行い、安全については各校各自で十分に注意する。
- 全天候型グラウンドのため競技者は走高跳12mm以下、それ以外は9mm以下のスパイクピンを使用する。
- 医務員は、本競技場1階医務室に常駐する。AEDは本競技場エントランスホールに設置する。

3 招集・点呼について

- プログラムの訂正がある場合は、プログラム巻末綴込みにある「プログラム訂正用紙」に記入し、8日の7:30までに各県監督に提出すること。各県監督は集約し大会総務へ提出すること。
- 招集所は、本競技場100mスタート付近室内走路内に設ける。
- 招集の手順
 - 競技者は招集完了時刻の5分前までに招集所に集合し、最終点呼を受ける。その際、アスリートビブスとスパイクシューズ、衣類及び競技場内へ持ち込む物品等の確認を受けた後、競技役員の誘導に従って入場する。ただし、棒高跳の招集は棒高跳ピットで行う。
 - 招集時刻については、その開始時刻を基準として下記のように定める。

	種 目	招集開始	招集完了
トラック競技	100m 200m 400m 800m 1500m 3000m 100mハートル 110mハートル 4×100mリレー	30分前	20分前
フィールド競技	走高跳 走幅跳 砲丸投	40分前	30分前
	棒高跳	70分前	60分前
四 種 競 技	200m 400m 100mハートル 110mハートル	30分前	20分前
	走高跳 砲丸投	40分前	30分前

- ③ 四種競技出場者は、最初の種目のみ招集所で競技者係の点呼を受けるが、以後の2種目からは、四種競技者待機所（100mスタート付近室内走路内）で点呼を受ける。
- 競技への出場をやむを得ず欠場する（混成競技の途中種目の棄権も含む）場合は、招集開始時刻までに、プログラム巻末綴込みにある「欠場届」をTICに提出すること。
- 競技が遅れた場合でも、プログラム記載時刻通りに招集を完了すること（時間厳守）。招集完了時刻に遅れたものは欠場とする。

4 競技運営について

- 予選におけるトラック競技の走路順・フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。
- 計時方法は写真判定（1/100秒）とする。
- タイムにより、決勝進出者を決めるときに同記録者があった場合、同記録者の1/1000秒の実時間を判定して進出者を定める。その結果、着差がない場合は、レーンに余裕があれば決勝に進出させる。レーンに余裕がない場合は、同記録者または代理人によって抽選を行う。（競技規則TR21）
- 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。リレー競技においては、バトンを渡し終えた競技者は、他競技者への妨害を避けるため、走路が空くまで自分のレーンまたはゾーンにとどまること。
- リレーのオーダー用紙は、予選・決勝とも招集完了時刻の1時間前までに、TICに提出すること。決勝のオーダー用紙はTICにおいて配布する。
- リレー競技のマーカーの使用は1カ所とし、マーカーは主催者が用意したものを使用する。使用したマーカーは、当該チームで処理すること。
- フィールド競技の走幅跳・砲丸投は計測ラインを設けず、全記録を測定する。事情（天候その他特別な条件）により変更することもある（四種競技を含む）。
- 四種競技の男子砲丸投は、4.000kgで行う。
- 抗議申し立てについては、各県の総監督を通して、開催県中体連陸上競技部専門委員長に申し立てる。判定に不服がある場合は、正規の抗議申し立てをする。（競技規則TR8）
- フィールド競技においてコーチ等からの助言は、スタンドのコーチングエリアから行うことができる。ただし、メインスタンドからタブレット等の録画再生機器を競技区域内の選手に渡すことは、安全上、禁止とする。なお、映像等を見せる場合は、紐でぶら下げたり、身を乗り出したりするなどの危険な行為はしないこと。

5 競技方法

- (1) 男女別団体対抗とする。

- ① 得点は下記のとおりとする。

1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位
8 点	7 点	6 点	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点

- ② 同順位を共有する場合は、該当得点を折半する。

(例：3 位が 2 人いた場合は 6 点 + 5 点 ÷ 2 人 = 5.5 点)

- ③ 合計得点が同じ場合は、高順位の多い団体を上位とする。

- (2) 走高跳・棒高跳について。

- ① バーの上げ方は、下記のとおりとする。ただし、事情により変更することがある。

男子	走 高 跳	(練習1.60) 1.65-1.70-1.75-1.80-1.83 以後 3 cm きざみ (練習1.75)
	四種走高跳	(練習1.40) 1.45 からすべて 5 cm きざみ (練習1.60)
	棒 高 跳	(練習2.60) 2.80-3.00-3.20-3.40-3.50 以後 10 cm きざみ (練習3.60) (練習4.00)
女子	走 高 跳	(練習1.35) 1.40-1.45-1.50-1.55-1.58 以後 3 cm きざみ (練習1.45)
	四種走高跳	(練習1.20) 1.25 からすべて 5 cm きざみ (練習1.35)

- ② 1 位決定のためのバーの上げ方は、走高跳 2 cm、棒高跳 5 cm とする。

- ③ 練習については各ピットで申告し、選択した高さで練習を行う。

- ④ 四種競技において、最初の高さを失敗した競技者の得点は 0 点とする。

6 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、各県で配布されたものをユニフォームの胸・背部に確実に結着する。ただし、跳躍種目の競技者は、背または胸の片側につけるだけでもよい。
- (2) トラック種目に出場する競技者は、腰ナンバー標識をランニングパンツ右側の上部やや後方につける。なお、腰ナンバー標識のナンバーはレーンナンバーとする。
- (3) 腰ナンバー標識は各県で準備すること。

7 用器具について

- (1) 本競技場で使用する用器具は、棒高跳のボール、バトンを除きすべて主催者が用意したものを使用する。

8 表彰について

- (1) 団体対抗は 3 位まで表彰し賞状を授与する。優勝団体には優勝杯を授与する。
- (2) 個人（リレーを含む）は 8 位まで表彰し賞状を授与する。1 位にはメダルを授与する。リレーはエントリー競技者 6 名にも個人賞状を授与する。
- (3) 各種目の 8 位までの入賞者は、競技終了後ただちに表彰控え場所に集合すること。ただし、リレーの決勝に出場する競技者には代理人を認める。

9 その他

- (1) 競技者は、その競技をする以外は、トラックおよびフィールドに立ち入ることができない。
- (2) テントは、本競技場では芝スタンドの各県テント以外の場所、補助競技場内では指定された場所に張る。競技場外及び周辺の公園内のテント設営は禁止する。
- (3) 各校・各県の横断幕やのぼりは、メインスタンド最上段の手すり及び芝スタンド最上段のフェンスに設置にしてもよい。設置する際には、通路や観覧席をふさがないようにする。
- (4) スタジアム内のシート・横断幕・のぼり等についての設置の際に、ガムテープの使用を禁止する。（養生テープは使用可）